

プロジェクト6 高齢者が生き生きとくらす社会づくり

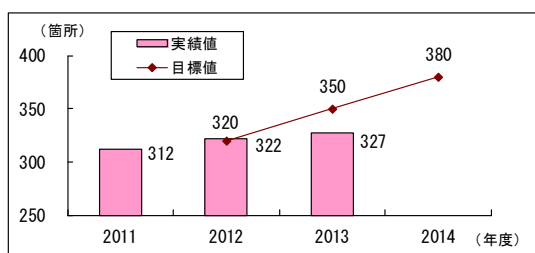
保 環 産 土 教

プロジェクトのねらい

- 👉 高齢者を標準とするしくみづくり
- 👉 若者から高齢者までとくらす地域づくり
- 👉 高齢者が健康で生き生きとくらすしくみづくり

数値目標の達成状況

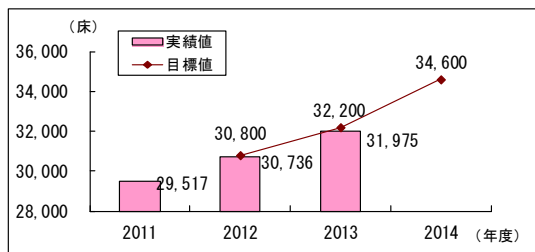
◆ 地域包括支援センターの設置数（累計） （高齢社会課調査）



【2013年目標値】 350か所 → 【実績値】 327か所 【達成率】 93.4%

- ・ 2013年の達成率は93.4%となっています。
- ・ これは、人材確保が困難などの理由から、設置が進まなかったことによるものです。

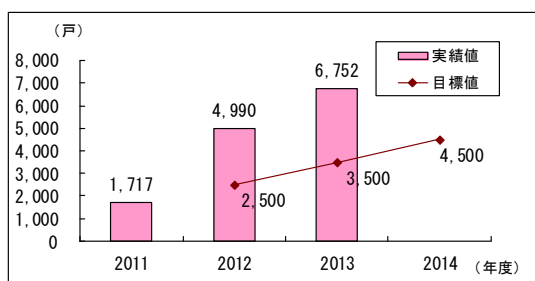
◆ 特別養護老人ホーム整備床数（累計） （高齢施設課調査）



【2013年目標値】 32,200床 → 【実績値】 31,975床 【達成率】 99.3%

- ・ 2013年の達成率は99.3%となっています。
- ・ これは、整備が概ね予定どおりに進捗したことによるものです。

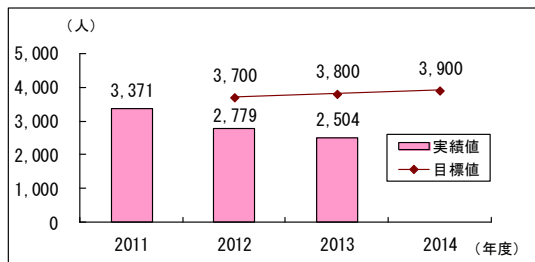
◆ サービス付き高齢者向け住宅の登録戸数（累計） （住宅計画課調査）



【2013年目標値】 3,500戸 → 【実績値】 6,752戸 【達成率】 192.9%

- ・ 2013年の達成率は192.9%となっています。
- ・ これは、国の補助事業等により建設が促進されたことによるものと考えられます。

◆ ゆめかながわシニアフェスタ参加者数 （高齢社会課調査）



【2013年目標値】 3,800人 → 【実績値】 2,504人 【達成率】 65.8%

- ・ 2013年の達成率は65.8%となっています。
- ・ これは、参加種目を増やした一方で、政令市において独自開催となった種目もあったことや、悪天候により一部の大会が中止されたことが影響したものと考えられます。

2013年度の主な取組みと成果

① 地域包括ケア・認知症ケアの推進

- 職員研修などによる地域包括支援センターの機能強化
 - 初任者研修（80人）、現任者研修（200人）の開催
- 研修の開催など福祉・介護人材の育成や就業支援など人材の定着・確保の促進
 - 神奈川県版ファーストステップ研修（3地区52人）、認知症介護実践者研修（384人）の開催
- 認知症疾患医療センターの設置促進など総合的な認知症対策の推進
 - 認知症ネットワーク構築のための「よりそいノート」の普及（40,000部）
- 特別養護老人ホームなどの介護保険施設の整備への支援
 - 特別養護老人ホームの整備への支援（1,239床）

② 高齢者が安心してらせるまちづくり

- 高齢者と子育て世代がともにくらす多世代近居のまちづくり
 - モデル地区を設定し、まちづくり計画の作成等（2地区）
- サービス付き高齢者向け住宅の供給促進
 - 施設見学会（2回）など神奈川県居住支援協議会を通じた普及啓発

③ 高齢者の健康・生きがいづくり

- 社会参画活動やスポーツ・文化活動などの健康・生きがいづくり
 - 老人クラブによる一人ぐらしや病弱な高齢者への訪問事業

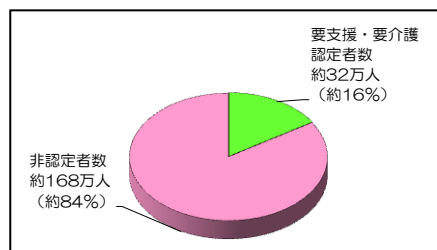
県民ニーズの動向（→調査結果のホームページへ ①②生活意識調査）

- ① 「介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」と思う人の割合 ⇒ 91.9%
(39項目中2位)
- ② 「住居の造りや介護サービスの提供が今のような状態の環境では、高齢者が安心して生活するのはむずかしい」と思う人の割合 ⇒ 76.2%

その他社会環境を表す指標

◆ 県内の要支援・要介護認定を受けている高齢者の割合

（2013年9月「介護保険事業状況報告」）



- 県内の高齢者のうち、介護保険の要支援・要介護認定を受けている高齢者の割合は、約16%です。
- 一方、高齢者の約84%は、要支援・要介護認定を受けていないことから、大多数はいわゆる「元気高齢者」と考えられます。

主な取組みや統計データに関する情報

- 「かながわ高齢者保健福祉計画」
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f300419/>
- 「神奈川県高齢者居住安定確保計画」
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6631/p302727.html>
- 県内の地域包括支援センター 一覧
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f4301/>
- 介護情報サービスかながわ
<http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

総合分析

プロジェクト全体としては、概ね順調に進んでいます。

- ・ サービス付き高齢者向け住宅の登録戸数は、目標を達成しました。
- ・ 特別養護老人ホーム整備床数は、目標値を若干下回りました。
- ・ 地域包括支援センターの設置数、高齢者が日頃の活動の成果を発表する「ゆめかながわシニアフェスタ」への参加者数は、目標値を下回りました。
- ・ 地域包括ケア・認知症ケアの推進、まちづくりなどは、着実に進んでいます。
- ・ 介護サービスや住まいの確保に対する県民ニーズは、非常に高いと考えられます。
- ・ 「元気高齢者」を対象とした健康・生きがいづくりが一層求められています。

⇒ 数値目標は4項目中3項目で達成できませんでしたが、特別養護老人ホームの整備はほぼ数値目標を達成するなど、プロジェクトは概ね順調に進んでいます。

今後の課題と対応方向

🍷 高齢者を標準とするしくみづくり

- ・ 中・長期的なビジョンの検討、地域包括ケア・認知症ケアのさらなる推進が課題
 - 介護・福祉に限定されない多岐にわたる分野で、どのような社会にすべきか検討
 - 地域包括支援センターの支援、人材育成などの取組みをさらに推進
 - 早期発見・早期診断を基本とした、認知症の人や家族に対する適切なケアの推進

🍷 若者から高齢者までともにくらせる地域づくり

- ・ 高齢者にやさしく、誰もが住みやすいまちの実現が課題
 - 多様な住まいや移動手段などを考慮したまちづくりの検討・推進

🍷 高齢者が健康で生き生きとくらせるしくみづくり

- ・ 「元気高齢者」の活躍の場づくりや、閉じこもりがちな高齢者への支援が課題
 - 地域が主体となって実施する、高齢者の居場所と出番を確保する取組みを支援

総合計画審議会の二次評価



概ね順調に進んでいます

- ・ 地域包括支援センターの設置促進のため、人材育成、人材確保のためのさらなる取組みが必要です。

プロジェクト7 県民が安心できる保健・医療体制の整備

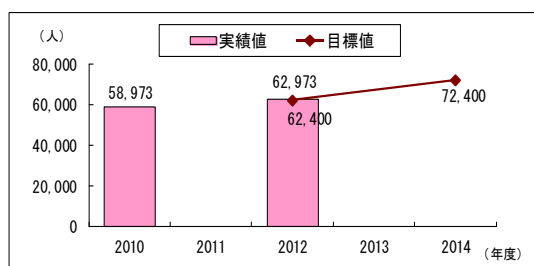
保 政 環

プロジェクトのねらい

- 👉 県民や患者が納得する医療先進県の実現
- 👉 がんにならない・負けない神奈川づくり
- 👉 病気になるための生活習慣の改善

数値目標の達成状況

◆ 病院などに勤務する看護職員の数 (保健師助産師看護師法第33条に基づく業務従事者届)

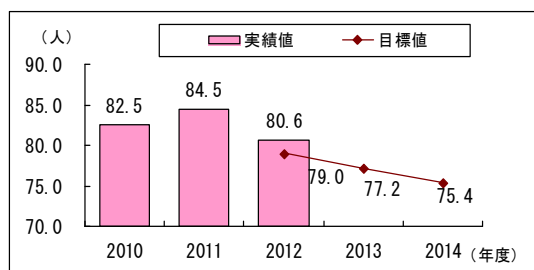


【2013年目標値】

2013年の目標値が設定されていないため、達成状況をお示しできません。

- ・ 2012年の実績値は62,973人となっています。

◆ 75歳未満の10万人当たりのがんによる死亡数 (国立がん研究センターがん対策情報センター調査)



【2013年目標値】

【実績値】

【達成率】

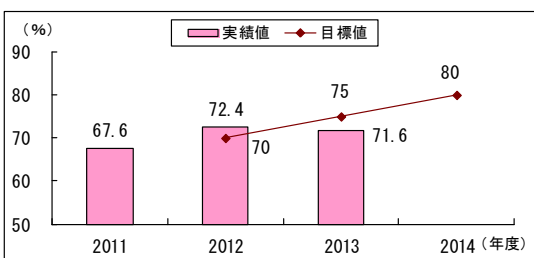
77.2人

—

—

- ・ 2013年の実績値は2014年11月に把握予定です。
- ・ なお、2012年の実績値は、80.6人となっています。

◆ 「日ごろから健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている」人の割合 (県民ニーズ調査)



【2013年目標値】

【実績値】

【達成率】

75%

71.6%

95.4%

- ・ 2013年の達成率は95.4%となっています。
- ・ これは、健康の大切さを伝える普及啓発の取組みが十分に浸透しなかったことによるものと考えられます。

2013年度の主な取組みと成果

① 地域に根ざし開かれた医療の推進

- ・ 救急医療や小児・産科医療を行う医療機関への支援
 - 救命救急センターの運営費に対する支援を実施 (5病院)
- ・ 医師、看護職員などの医療人材の確保
 - 県内4医科大学の学生に対し、修学資金の貸付を実施 (43人)
 - 看護師養成施設への支援 (18校)、新人看護職員研修 (121件) や院内保育の運営 (110件) への助成
- ・ ICTを活用した医療情報の共有
 - マイカルテ検討委員会 (2回) 及び関連作業部会 (5回) を実施
 - 神奈川マイカルテ (お薬手帳の電子化) 実証実験を開始

② がん対策の総合的な推進

- ・ がんの予防や早期発見に向けた取組み
 - 受動喫煙防止キャンペーン（4回）や企業と連携したがん検診受診促進研修会の開催（8回、約430人参加）
- ・ 県立がんセンターの整備や重粒子線治療装置の導入
 - 県立がんセンター新病院がオープン（2013年11月）、重粒子線治療装置の製造・建屋建設工事
- ・ がん患者・家族への支援
 - がん診療連携拠点病院及びがん診療連携指定病院の相談支援センターにおける、がん患者及び家族に対する相談（県内23か所）、がん体験者による相談（ピアサポート）（県内5か所）

③ 医食農同源など病気にならない取組みの推進

- ・ 食生活習慣の改善に向けた普及啓発や医食農同源の取組み
 - 医食農同源の取組みやイベントなどを紹介するチラシの発行（年4回、計26,000枚）、健康レシピを一冊にまとめたメニュー集の発行（700冊）
 - 「未病を治すかながわ宣言」の発表、健康寿命日本一フォーラムの開催（来場者約350人）

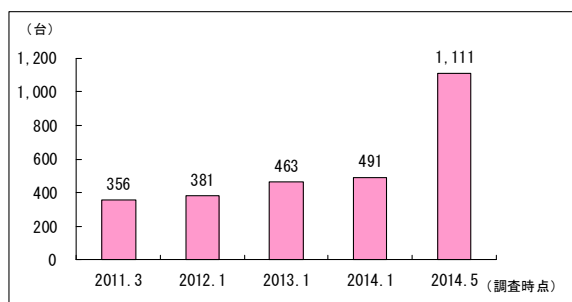
県民ニーズの動向 （→調査結果のホームページへ ①②重要度・満足度調査）

① 「健康的な食生活を送るための情報や知識が得られること」を重要だと思う人の割合（県民重要度） ⇒ 72.1%

② 「看護師や介護職員などの人材が確保され、安心して保健・医療・福祉サービスが受けられること」を重要だと思う人の割合（県民重要度） ⇒ 89.2%

その他社会環境を表す指標

◆ 県有施設へのAEDの設置状況 （医療課調査）



- ・ 県有施設やパトカーなどへのAEDの設置を進めてきているため、設置数は、年々増加しています。
なお、平成26年5月に、全交番への設置が完了し、設置数が大幅に増加しています。

主な取組みや統計データに関する情報

- ・ 神奈川県保健医療計画
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f742/>
- ・ 神奈川県医療のグランドデザイン
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f430710/>
- ・ かながわの医師確保対策
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f100372/>
- ・ かながわのがん対策
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417303/>
- ・ 国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報サービス
<http://ganjoho.jp/public/index.html>

総合分析

プロジェクト全体としては、概ね順調に進んでいます。

- ・ 看護職員の養成・定着対策、再就業支援など、看護職員の確保に向けた取組みは、着実に進んでいます。
- ・ 75歳未満の10万人当たりのがんによる死亡数が減少傾向にあります。
- ・ 「日ごろから健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている」人の割合は、目標値を下回りました。
- ・ 救命救急センターへの支援など、救急医療を行う医療機関への支援は着実に進んでいます。
- ・ 修学資金の貸付など、将来の医師確保に向けた取組みは、着実に進んでいます。
- ・ 福祉や医療人材確保について重要だと思ふ県民の割合は、約9割となっています。

⇒ 数値目標の達成状況は3項目中2項目で未把握ですが、がんの予防・早期発見に向けた取組みなどは着実に進められており、プロジェクトは概ね順調に進んでいます。

今後の課題と対応方向

🍷 県民や患者が納得する医療先進県の実現

- ・ 医療資源に応じた救急医療体制の整備、不足する診療科における医師確保が課題
 - 医療資源の地域偏在の是正や必要な医療人材の養成・確保の取組みを一層強化
 - 県有施設へのAEDの設置や新たな救急医療情報システムの開発により救急医療体制を強化
- ・ 全国で2番目に少ない人口10万人あたりの就業看護職員数を増やすことが課題
 - 離職防止を図るため、採用2～5年目の若手看護職員を対象とした研修を実施
 - 離職した看護職員の再就業を促進するため、地域の医療機関・福祉施設が共同して就業説明会や相談会を開催

🍷 がんにならない・負けない神奈川づくり

- ・ がん予防や早期発見に向けたさらなる取組みの推進が課題
 - がん予防のため、県民一人ひとりの生活習慣の改善を図る取組みや、がん検診受診促進に向けた効果的な取組みの実施

🍷 病気にならないための生活習慣の改善

- ・ 県民が健康で元気に生活できる期間である「健康寿命」の延伸が課題
 - 身近な場で「食」「運動」「社会参加」などに取り組める未病センターや、企業・団体が健康マネジメントに取り組むCHO（健康管理最高責任者）構想など、「未病を治す」取組みを進め、県民の健康づくりを推進

総合計画審議会の二次評価



概ね順調に進んでいます

- ・ 在宅医療については、これまでの取組みにおける課題を踏まえて、より一層の体制整備に取り組む必要があります。

プロジェクト8 こころといのちを守るしくみづくり



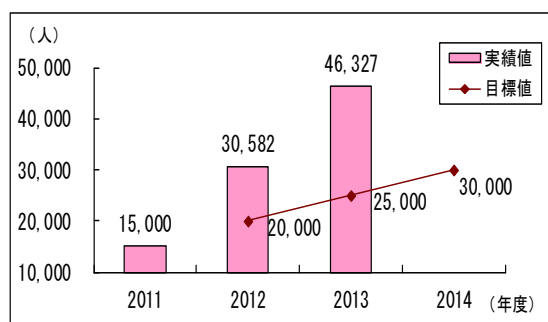
プロジェクトのねらい

- こころの健康を保持し、いのちを大切に生きがいを持ってくらす社会の実現
- 身近な地域で精神科医療を受けられる体制の構築

数値目標の達成状況

◆ ゲートキーパーの養成数（累計）

（保健予防課調査）

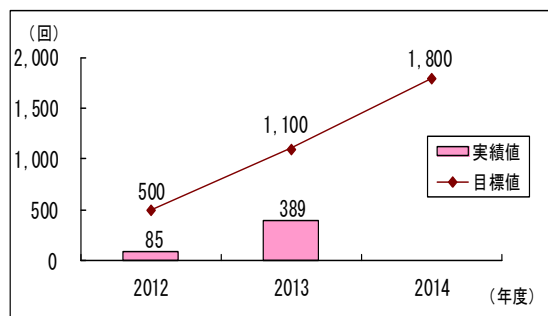


【2013年目標値】	【実績値】	【達成率】
25,000人	46,327人	185.3%

- 2013年の達成率は185.3%となっています。
- これは、引き続き、ゲートキーパー養成研修の開催が市町村、関係機関・団体に広がったことによるものです。

◆ こころのケアが必要な人に対して専門チームによる訪問支援を行った回数（累計）

（保健予防課調査）



【2013年目標値】	【実績値】	【達成率】
1,100回	389回	35.3%

- 2013年の達成率は35.3%となっています。
- これは、専門チームによる訪問支援ではなく、電話相談や関係機関で対応した対象者がいたことによるものです。

2013年度の主な取組みと成果

① 自殺対策の総合的な推進

- 自殺予防対策の推進
 - ゲートキーパー養成研修の開催（県94回、市町村233回、関係機関・団体17回）、「いのち」を大切にする心をはぐくむ教育推進研究事業の実施（5校）、高校生のこころサポート事業の実施（4校）、企業へのメンタルヘルス対策専門家派遣事業の実施（2回）
- うつ病対策の推進
 - かかりつけ医うつ病対応力向上研修の開催 県（2回）、政令市（3回）
- 多職種の専門チームによる訪問支援
 - 医療財団法人青山会福井記念病院に看護師、精神保健福祉士、医師などで構成される多職種の専門チームによる訪問支援を継続（支援対象者21人、訪問回数304回）
- 自殺未遂者、自死遺族への支援
 - 自殺未遂者実態調査の実施と自殺未遂者支援研修（2回）、自死遺族の集い（6回）、自死遺族支援研修（1回）

② 精神科医療体制の整備・充実

- ・ 休日・夜間における精神科救急医療体制の充実
 - 精神科救急医療体制において土日の午後から夜間に初期・二次・警察官通報の受入れを行う土日午後輪番病院を設定
 - 身体合併症患者受入体制の整備など（医師等の配置 2病院、専門医の養成 2病院、医療機関などへ電話で助言する緊急相談窓口の継続 1病院）
- ・ 県立精神医療センターの整備
 - 県立精神医療センター整備工事の推進

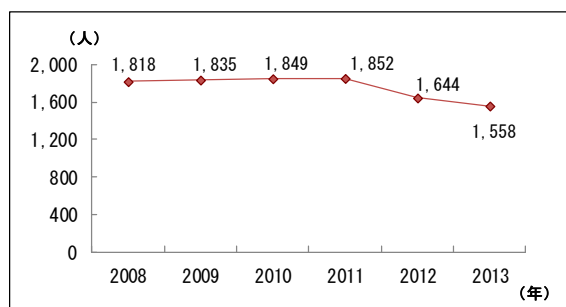
県民ニーズの動向 (→調査結果のホームページへ ①生活意識調査 ②重要度・満足度調査)

① 「ここに不安や悩みがあるときに、いつでも相談できる人がいる」と思う人の割合 ⇒ 56.2%

② 「ここに不安や悩みのある人がいつでも相談できるなど、自殺を防ぐ社会づくりが行われていること」が重要だと思う人の割合（県民重要度） ⇒ 73.8%

その他社会環境を表す指標

◆ 県内自殺者の状況（警察庁統計）



- ・ 県内自殺者数は、2007年以降1,800人を越えて推移し、深刻な状況が続いていましたが、2012年は、1,644人と5年振りに減少しました。
- ・ 2013年は、1,558人と昨年に引き続き減少傾向が続いています。

主な取組みや統計データに関する情報

- ・ 神奈川自殺総合対策指針
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f300435/>
- ・ かながわ自殺予防情報センター
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f70211/>
- ・ 県立精神医療センター
<http://seishin.kanagawa-pho.jp/>
- ・ 警察庁 統計のページ
<http://www.npa.go.jp/toukei/index.htm>

総合分析

プロジェクト全体としては、概ね順調に進んでいます。

- ・ 2つの数値目標の内、ゲートキーパーの養成数については目標を達成しました。
- ・ 多職種の専門チームによる訪問支援は、目標は達成しませんでした。訪問支援を行った回数は増えています。
- ・ 県民ニーズ調査では、「こころに不安や悩みのある人がいつでも相談できるなど、自殺を防ぐ社会づくりが行われていること」が重要だと思ふ県民の割合は高い状況です。
- ・ 県内自殺者の状況については、深刻な状況が続いているものの減少傾向が続いています。

⇒ 数値目標の達成状況は2項目中1項目で達成できず、専門チームによる訪問支援については取組みの一層の推進が必要ですが、ゲートキーパーの養成は着実に進み、自殺者数の減少傾向が続くなど、プロジェクトは概ね順調に進んでいます。

今後の課題と対応方向

♪ こころの健康を保持し、いのちを大切に生きがいを持ってくらす社会の実現

- ・ 多職種の専門チームによる訪問支援の促進が課題
 - 地域精神保健福祉関係機関、市町村との連携強化
- ・ 自殺未遂者への支援が課題
 - 医療機関、保健福祉事務所等との連携による自殺未遂者支援の実施

♪ 身近な地域で精神科医療を受けられる体制の構築

- ・ 休日・夜間における精神科救急医療体制の充実が課題
 - 精神疾患と身体疾患を合併する患者の受入れ体制などの整備の促進

総合計画審議会の二次評価



概ね順調に進んでいます

- ・ 精神科医療体制については、病院での医療だけではなく、地域での支援のより一層の充実に向けて取り組む必要があります。

プロジェクト9 障がい者の地域生活を支えるしくみづくり

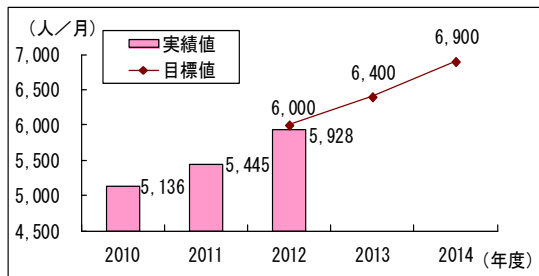
保 土

プロジェクトのねらい

- 👉 障がい者が安心してくらす地域社会の実現
- 👉 誰にもやさしいバリアフリーのまちづくり

数値目標の達成状況

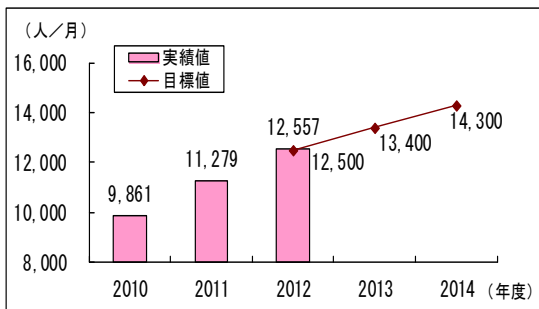
◆ グループホームなど地域で生活する人の数 (障害福祉課調査)



【2013年目標値】	【実績値】	【達成率】
6,400人/月	—	—

- ・ 2013年の実績値は2014年9月に把握予定です。
- ・ グループホームなど地域で生活する人の数は、2010年から2012年の2年間で15%増えています。

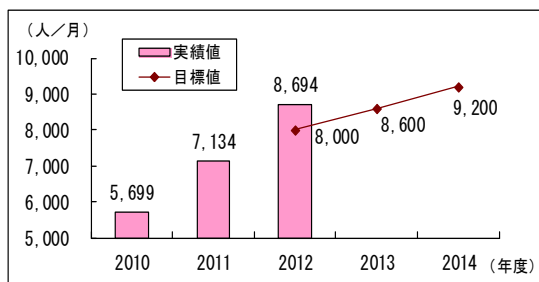
◆ ホームヘルプサービスを利用する人の数 (障害福祉課調査)



【2013年目標値】	【実績値】	【達成率】
13,400人/月	—	—

- ・ 2013年の実績値は2014年9月に把握予定です。
- ・ ホームヘルプサービスを利用する人の数は、2010年から2012年の2年間で27%増えています。

◆ 福祉施設・事業所で就労訓練をする人の数 (障害福祉課調査)



【2013年目標値】	【実績値】	【達成率】
8,600人/月	—	—

- ・ 2013年の実績値は2014年9月に把握予定です。
- ・ 福祉施設・事業所で就労訓練をする人の数は、サービス提供体制の整備により着実に増えています。

2013年度の主な取組みと成果

① 「すまい」の確保と福祉・医療サービスの充実

- ・ グループホームなどへの支援
 - グループホームなどの職員の支援技術向上研修 (受講者201人)
- ・ 専門的な支援を行う人材養成
 - たんの吸引等の医療的ケアを行う介護職員などの研修 (受講者174人)
- ・ 県総合リハビリテーションセンターの再整備
 - 県総合リハビリテーションセンター新棟新築工事に伴う準備工事

② 「いきがい」を高める社会参加や就労の支援

- ・ 地域活動支援センターの運営の支援
 - 休日開所事業の新設などへの補助（22市町村 95か所）
- ・ 障害者就業・生活支援センターによる就労支援
 - 県内8か所に設置したセンターでの就労支援（登録者数2,942人）

③ バリアフリー化の推進など「ささえあい」の環境づくり

- ・ 民営鉄道駅舎、県管理道路や県立都市公園などのバリアフリー化
 - 民営鉄道駅舎のエレベーター等の設置に対する市町村へ補助（1駅）
 - 県管理道路の横断歩道部の段差の解消（173か所）
- ・ 専門的な相談支援体制の強化
 - 相談支援従事者の質の向上を図るスキルアップ研修（受講者358人）

県民ニーズの動向 （→調査結果のホームページへ ①②重要度・満足度調査 ③生活意識調査）

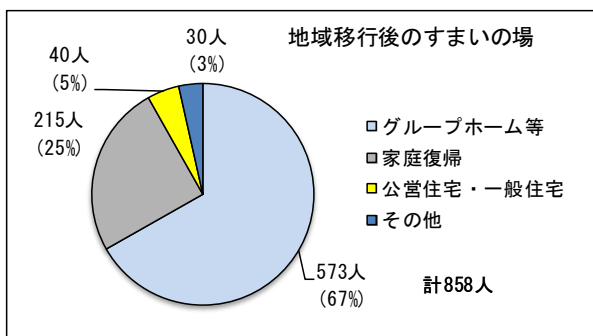
① 「高齢者や障がい者が自立し、安心して生活できるような支援体制が整っていること」を重要だと思う人の割合（県民重要度） ⇒ 81.4%

② 「高齢者や障がい者が自立し、安心して生活できるような支援体制が整っていること」に満足している人の割合（県民満足度） ⇒ 4.8%

③ 「鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、誰もが安心して移動・利用できるよう、みんなが助け合う、人にやさしいまちになっていく」と思わない人の割合 ⇒ 71.7%

その他社会環境を表す指標

◆ 福祉施設入所者の地域生活への移行の状況（神奈川県障害福祉計画）



- ・ 神奈川県障害福祉計画では、2014年度末までに2005年10月時点の施設入所者数5,094人のうち、1,072人が地域へ移行することを目指しています。
- ・ 2005年10月1日から2013年10月1日までの間に、858人が地域生活へ移行しました。このうち、約7割の人が、グループホーム等に移行しています。

主な取組みや統計データに関する情報

- ・ 神奈川県障害福祉計画
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f5925/>
- ・ かながわの障害福祉ランドデザイン
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f3737/>
- ・ 障害福祉情報サービスかながわ
<http://www.rakuraku.or.jp/shienhi/>

総合分析

プロジェクト全体としては、概ね順調に進んでいます。

- ・ グループホームなど地域で生活する人の数やホームヘルプサービスを利用する人の数は着実に増えています。
- ・ 障がい者の地域生活を支える支援体制の整備や専門人材の育成は着実に進んでいます。
- ・ 多くの県民が「高齢者や障がい者が自立し、安心して生活できるような支援体制が整っていること」が重要だと思っていますが、満足していると思う人の割合は非常に低い水準です。
- ・ バリアフリー化へのニーズは依然として高い状況にあります。
- ・ 施設や病院に入所する障がい者の地域生活への移行は進んでいます。グループホームなど受け皿としての基盤整備が必要です。

⇒ 数値目標の達成状況は未把握ですが、ホームヘルプサービスを利用する人の数などは着実に増加しており、プロジェクトは概ね順調に進んでいます。

今後の課題と対応方向

♪ 障がい者が安心してくらす地域社会の実現

- ・ 障がい者の地域生活を支える福祉サービスの一層の充実が課題
→ 障がい特性に応じた専門的支援ができる人材の養成・確保を推進

♪ 誰にもやさしいバリアフリーのまちづくり

- ・ まちづくりとともに「心のバリアフリー」の一層の推進が課題
→ 在宅障がい者の住宅のバリアフリー化や障がい者理解を促進する取組みを着実に推進
→ 県管理道路の幅広歩道の整備などの取組みを着実に推進

総合計画審議会の二次評価



概ね順調に進んでいます

- ・ バリアフリーの推進に当たっては、情報のバリアフリーを含め、一層推進していく必要があります。

プロジェクト10 男女がお互いを尊重しともに活躍できる社会づくり



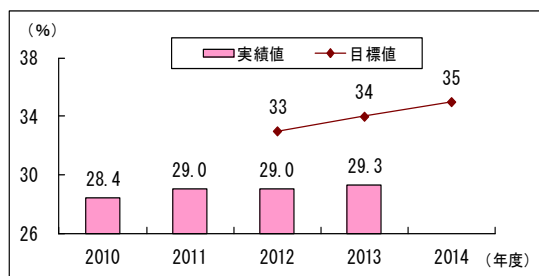
プロジェクトのねらい

- 👉 男女共同参画社会の実現
- 👉 仕事と家庭を両立できる環境づくり
- 👉 配偶者などからの暴力の根絶

数値目標の達成状況

◆ 県及び市町村の審議会等における女性委員の登用率

(地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況調査)

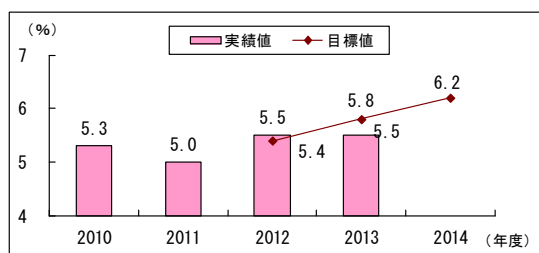


【2013年目標値】	【実績値】	【達成率】
34%	29.3%	86.1%

- ・ 2013年の達成率は86.1%となっています。
- ・ これは、審議会などの委員を推薦する団体の役員に女性が少ないことなどによるものです。

◆ 事業所における女性管理職の割合

(神奈川県男女共同参画推進条例に基づく事業所からの届出)

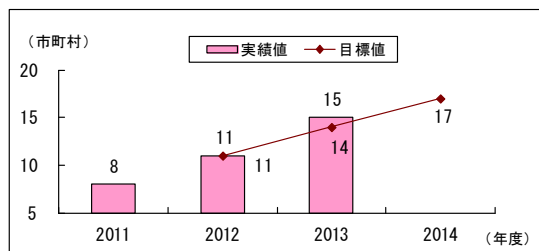


【2013年目標値】	【実績値】	【達成率】
5.8%	5.5%	94.8%

- ・ 2013年の達成率は、94.8%となっています。
- ・ これは、係長相当職にとどまっている女性が多いことによるものです。

◆ 配偶者などからの暴力防止や被害者支援に関する基本計画の策定市町村数(累計)

(人権男女共同参画課調査)



【2013年目標値】	【実績値】	【達成率】
14市町村	15市町村	107.1%

- ・ 2013年の達成率は107.1%となっています。
- ・ これは、県の働きかけに応じて、市町村が積極的に基本計画の策定に取り組んだことによるものです。

2013年度の主な取組みと成果

① 男女共同参画の推進

- ・ 女性の参画を支援する講座などの実施
 - 管理職や審議会委員などをめざす人材育成のための講座の開催(女性管理職育成セミナー2回(6日間)、社会参画セミナー「江の島塾」1回(12日間))
- ・ 女性の就業・再就業などの支援
 - 講座や相談、カウンセリングなどの実施(相談712件)
- ・ 男女共同参画の理解促進
 - 市町村やNPOとの連携による講座の開催(男女共同参画セミナーなど25事業)

② 男女がともに働きやすい環境づくり

- ・ 男女がともに生き生きと働ける職場環境づくり
 - ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた、中小企業などへのアドバイザー派遣（8社延べ22回）、働く母親へのカウンセリング（138回）
- ・ 男女がともに働きながら子育てしやすい環境づくり
 - 認可保育所の整備の支援（8,066人定員増）

③ 配偶者などからの暴力防止と被害者への支援

- ・ 配偶者などからの暴力の防止に向けた普及啓発などの実施
 - 暴力防止に向けた講座の実施（9回）や啓発冊子の配布（128,000部）
- ・ 被害者への支援
 - 相談、一時保護、自立支援の実施（緊急一時保護217件（2014年1月末））

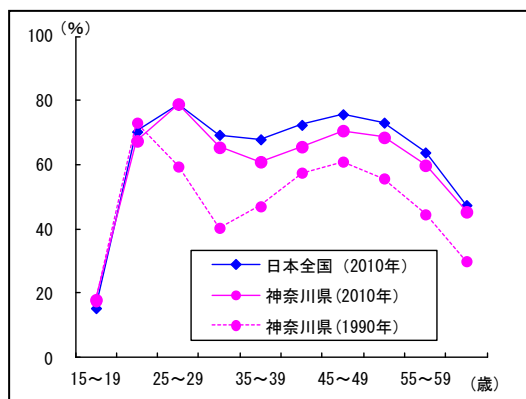
県民ニーズの動向（→調査結果のホームページへ ①②生活意識調査）

① 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」と思う人の割合 ⇒ 16.3%

② 「女性が働き続けるには、まだまだ厳しい世の中だ」と思う人の割合 ⇒ 80.1%

その他社会環境を表す指標

◆ 女性の年齢階級別労働力率（国勢調査）



- ・ 女性の年齢階級別労働力率は、出産・子育て期にあたる30歳代で低下し、その後再就職をすることにより上昇するいわゆるM字カーブを描いています。神奈川県は、以前に比べ上昇しているものの、全国と比べて30歳代の離職率が高い傾向があり、35～39歳の女性の労働力率は全国ワースト2位となっています。
- ・ これは、結婚、出産に伴い離職する女性が多いことや、男女ともに長時間労働や長い通勤時間などにより仕事と子育てなど生活の両立が厳しいことなどによるものです。

主な取組みや統計データに関する情報

- ・ かながわ男女共同参画推進プラン（第3次）
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f5020/>
- ・ 神奈川県の男女共同参画年次報告書
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f5459/>
- ・ ワーク・ライフ・バランスのポータルサイト「かながわ働き方改革」
<http://www.kanagawa-wlb.net/>
- ・ かながわDV防止・被害者支援プラン
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f5903/>
- ・ 男女共同参画白書（内閣府）
http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/index.html
- ・ 男女共同参画社会に関する世論調査（平成24年10月）（内閣府）
<http://www8.cao.go.jp/survey/h24/h24-danjo/index.html>

総合分析

プロジェクト全体としては、概ね順調に進んでいます。

- ・ 審議会などの女性委員登用率は、横ばい傾向にあり、目標値を下回りました。
- ・ 事業所における女性の管理職の割合は、横ばい傾向にあり、目標値を下回りました。
- ・ 配偶者などからの暴力防止や被害者支援に関する基本計画の策定市町村数は、目標を達成しました。
- ・ 男女共同参画の理解に向けた意識啓発、国と連携した女性の就業支援、暴力被害者への支援などに着実に取り組んでいます。
- ・ 県民ニーズ調査からは、女性の就業環境が厳しいと考える人が多い状況がうかがえます。また、35～39歳の女性の労働力率は、全国ワースト2位となっています。

⇒ 数値目標は3項目中2項目で達成できませんでしたが、女性の人材育成、認可保育所の整備などの取組みを着実に推進するなど、プロジェクトは概ね順調に進んでいます。

今後の課題と対応方向

♪ 男女共同参画社会の実現

- ・ 防災、科学技術分野や政策・方針決定過程への女性の参画及び労働力率の改善が課題
→ あらゆる分野への女性の参画支援、審議会委員などへの登用の推進、女性の就職、再就職、起業などの支援

♪ 仕事と家庭を両立できる環境づくり

- ・ 長時間労働、保育所などの整備や保育のサービスの充実が課題
→ 仕事と家庭を両立しやすい職場環境の改善及び保育サービスの充実

♪ 配偶者などからの暴力の根絶

- ・ 暴力の態様が多様化してきたことへの対応が課題
→ 暴力の防止に向けた啓発や暴力被害者の自立支援などの強化

総合計画審議会の二次評価



概ね順調に進んでいます

プロジェクト11 多文化共生の地域社会づくり

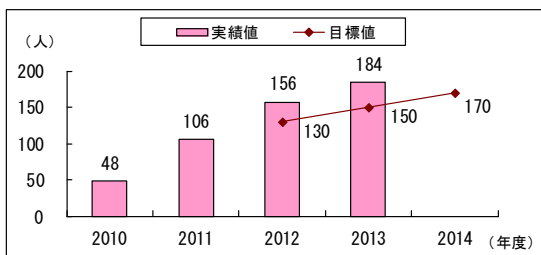


プロジェクトのねらい

- ♪ 多文化共生社会の実現
- ♪ 留学生にとって魅力ある環境づくり

数値目標の達成状況

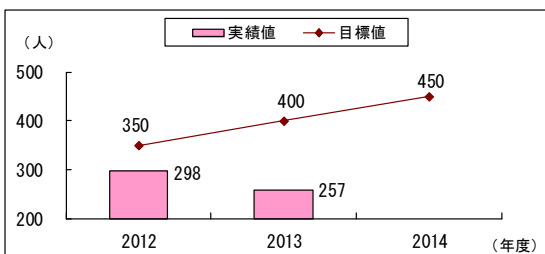
◆ 外国籍県民の課題解決に向けた支援者研修の受講者数 (国際課調査)



【2013年目標値】	【実績値】	【達成率】
150人	184人	122.6%

- ・ 2013年の達成率は122.6%となっています。
- ・ これは、時宜を得たテーマを取り上げ、ニーズに対応した内容の研修を開催したことによるものです。

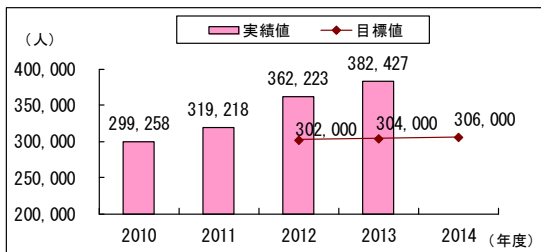
◆ 留学生を対象とした会社説明会への参加学生数 (国際課調査)



【2013年目標値】	【実績値】	【達成率】
400人	257人	64.2%

- ・ 2013年の達成率は64.2%となっています。
- ・ これは、学校訪問による広報を充実し、一定の成果につながったものの、留学生個人々人へ開催情報が十分伝わらなかったことによるものです。

◆ 地球市民かながわプラザの利用者数 (国際課調査)



【2013年目標値】	【実績値(速報値)】	【達成率】
304,000人	382,427人	125.7%

- ・ 2013年の達成率は125.7%となっています。
- ・ これは、県民の関心の高い国際理解をテーマとする企画展の充実などによるものです。

2013年度の主な取組みと成果

① 外国籍県民がくらしやすい環境づくり

- ・ 外国籍県民のコミュニケーションを支援するための日本語講座などの実施
 - 国際言語文化アカデミアにおける外国籍県民支援講座の実施(46講座)
- ・ 外国籍の高校生に対する学習や学校生活の支援
 - 外国籍の高校生の保護者との意思疎通を図る通訳支援事業の実施(延べ114回)
- ・ 外国籍県民の課題解決に向けた支援者研修の実施
 - 外国籍県民の相談を行う方やNPOで外国籍県民を支援する方を対象に含む外国籍県民多文化ソーシャルワーク講座の実施(養成講座6回、フォローアップ講座2回)
- ・ 災害時における外国籍県民支援の推進
 - 災害多言語支援センター設置訓練の実施(実践訓練1回)
- ・ 外国籍県民が安心して医療を受けるための通訳サービスの提供
 - 医療通訳派遣システム事業の実施(通訳派遣4,202件)

② 神奈川でくらし学ぶ留学生への支援

- ・ 大学やNPO、企業と連携した留学生支援機能の整備
 - 留学生支援拠点「かながわ国際ファンクラブ KANAFAN STATION」の運営
- ・ 企業や大学と連携した留学生の就職支援
 - 留学生支援拠点での留学生と企業との交流サロン（1回）や就職支援セミナー（5回）、企業見学会（2回）、会社説明会（1回）の実施
- ・ 留学生と地域との交流と子どもたちの国際理解の機会提供
 - 国際理解講座の実施（県内学校 7校）、日本人学生・生徒と留学生との交流の場「かながわインターナショナル・カフェ」（9回）

③ 多文化理解の推進

- ・ 地球市民かながわプラザを中心とした多文化理解の推進
 - 多文化共生イベント「あーすフェスタかながわ」の実施（来場者約1万9千人）
 - 常設展示室を活用した展示学習の実施や企画展の開催（年間5回）

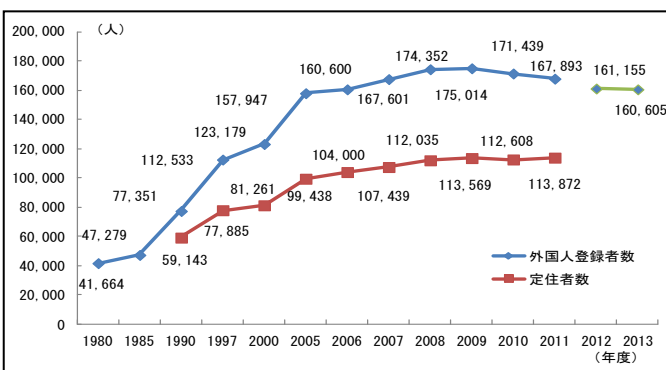
県民ニーズの動向 （→調査結果のホームページへ ①②重要度・満足度調査）

- ① 「外国人と日本人が国籍、民族、文化の違いを理解し、認め合っ
てともに暮らすこと」を重要だと思う人の割合（県民重要度） ⇒ 56.4%
- ② 「民間の国際交流・協力活動が活発であること」を重要だと思う
人の割合（県民重要度） ⇒ 41.1%

その他社会環境を表す指標

◆ 県内外国人登録者数及び定住者数

（外国人登録者数；国際課調査、定住者数；法務省「在留外国人統計」）



- ・ 神奈川の外国籍県民（住民基本台帳上の外国人数）は、2013年度、160,605人であり、県民の57人に1人が外国籍県民という状況です。
- ・ 国籍（出身地）も様々な多くの外国籍県民が住んでいる神奈川は、多様な文化を擁する国際色豊かな地域であるといえます。

※ 2011(平成23)年度までは外国人登録法に基づく外国人登録者数

※ 2012(平成24)年度からは住民基本台帳上の外国人数

主な取り組みや統計データに関する情報

- ・ かながわ国際施策推進指針（第3版）
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f607/>
- ・ かながわ国際ファンクラブ
<http://www.kanafan.jp/>
- ・ 公益財団法人 かながわ国際交流財団
<http://www.kifjp.org/>
- ・ 県内外国人統計（外国人登録者統計）
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f4695/>
- ・ 登録外国人統計統計表（法務省）
http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_touroku.html

総合分析

プロジェクト全体としては、概ね順調に進んでいます。

- ・ 外国籍県民の課題解決に向けた支援者研修の受講者数は、目標を達成しました。
- ・ 留学生を対象とした会社説明会への参加学生数は、目標値を下回りました。
- ・ 地球市民かながわプラザの利用者数は、目標を達成しました。
- ・ 支援者研修の受講者が増加するなど、外国籍県民がくらしやすい環境づくりは着実に進んでいます。
- ・ 「かながわ国際ファンクラブ KANAFAN STATION」の運営など、留学生支援を行うとともに、多文化共生イベントや展示、情報提供を通して、多文化理解を推進しました。
- ・ 国際化が進展し、外国への興味・関心は高い水準にあります。
⇒ 数値目標は3項目中2項目で達成しており、留学生支援拠点の整備や就職支援が本格化するなど、プロジェクトは概ね順調に進んでいます。

今後の課題と対応方向

👉 多文化共生社会の実現

- ・ 外国籍県民に対する迅速かつ的確な情報提供をはじめとする生活支援の充実が課題
→ 多様な媒体を用いた情報発信や災害時の情報提供や生活相談などの支援の充実

👉 留学生にとって魅力ある環境づくり

- ・ 留学生とかながわの若者たちの交流の拡大が課題
→ 交流の機会を提供する「かながわインターナショナル・カフェ」や「国際理解講座」を実施

総合計画審議会の二次評価



概ね順調に進んでいます

- ・ 多文化共生社会の実現に向け、日本に来て間もない外国籍県民の生活支援の取組みをより一層進める必要があります。
- ・ 外国につながる児童生徒については、子ども達の気持ちに寄り添いながらより一層きめ細やかな対応を行っていく必要があります。

プロジェクト12 健康で豊かな人生を築くスポーツ振興

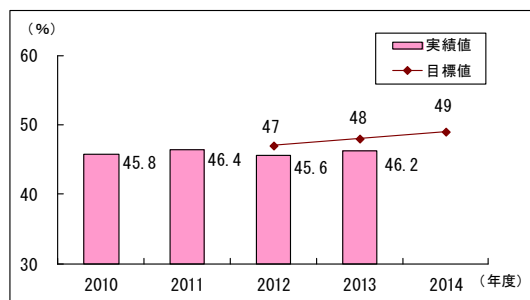


プロジェクトのねらい

- 誰かがスポーツに親しめる社会の実現
- 気軽にスポーツができる環境づくり

数値目標の達成状況

◆ 子どもが週3回以上のスポーツを実施する率 (スポーツ課調査)



【2013年目標値】 【実績値】 【達成率】

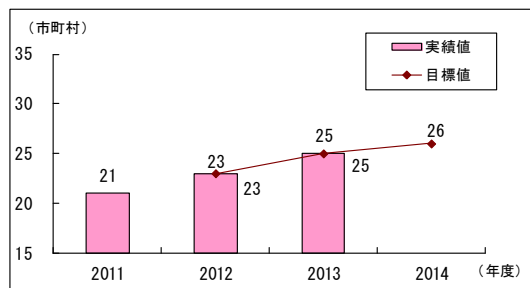
48%

46.2%

96.2%

- 2013年の達成率は96.2%となっています。
- これは、小学生の実施率が低いことによるものです。

◆ 総合型地域スポーツクラブを育成した市町村数(累計) (スポーツ課調査)



【2013年目標値】 【実績値】 【達成率】

25市町村

25市町村

100%

- 2013年の達成率は100.0%となっています。
- これは、クラブが育成されていない市町村に対して巡回・相談を重点的に実施したことによるものです。

2013年度の主な取組みと成果

① ライフステージに応じたスポーツ活動

- ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
 - 子どもと高齢者の交流事業や世代間交流イベントなどにレクリエーション指導者を派遣(48件)
 - 県民スポーツ週間において小学生向けのスポーツ体験教室、中学生の武道錬成会のほか、すべての世代が参加できる新たなウォーキングイベントなどを県主催の中央イベント(参加者6,058人)として実施
 - 3033運動キャンペーンイベント(15回)などを開催
 - 「かながわシニアスポーツフェスタ」(参加者2,084人)の開催や「かながわスポーツ・レクリエーション大会」(参加者3,830人)の支援

② 誰もがスポーツに親しめるしくみ・場づくり

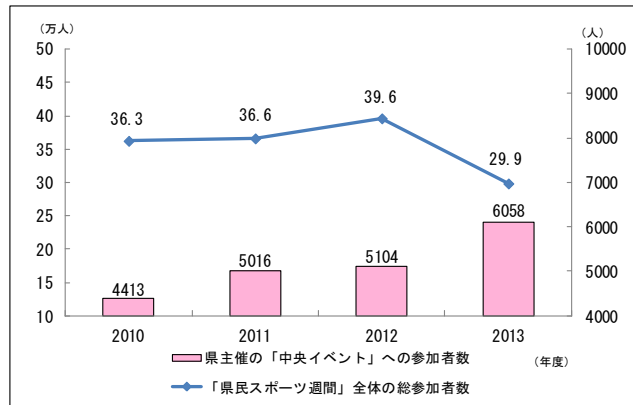
- スポーツを支えるしくみの整備
 - 総合型地域スポーツクラブ等の運営に必要なマネジメント研修(6講座93人)や指導者のスキルアップ研修(4講座199人)の実施
 - スポーツ競技会で優秀な成績を収めた選手・団体を表彰(延べ132人、29団体)、神奈川スポーツ賞の表彰(4人、2団体)
 - 「神奈川県障害者スポーツ大会」(参加者1,208人)の開催や、知的障がい者が集う「神奈川県ゆうあいピック」(参加者1,071人)の支援
- スポーツをする場の充実
 - 県立学校の体育施設(154校)、大学や企業のスポーツ施設の開放を促進
 - 県立都市公園の野球場、プール等スポーツ施設の整備・管理(7公園)

県民ニーズの動向 (→調査結果のホームページへ ①重要度・満足度調査)

① 「運動やスポーツに親しめる機会や場が身近に整っている ⇒ 24.7%
こと」に満足している人の割合(県民満足度)

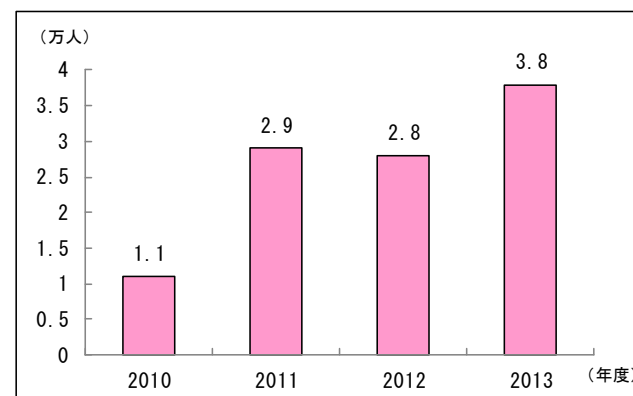
その他社会環境を表す指標

◆ 「県民スポーツ週間」全体の総参加者数の推移 (スポーツ課調査)



- ・ 「県民スポーツ週間」全体の総参加者数は、29.9万人となっています。
- ・ これは、市町村が行う関連事業の見直しによるものですが、県主催の中央イベントでは参加者が増加しています。

◆ 「3033運動キャンペーンイベント」の参加者数の推移 (スポーツ課調査)



- ・ 「3033運動キャンペーンイベント」の参加者数は、約3.8万人となっています。
- ・ これは、全体的に大規模な催してキャンペーンイベントを実施できたため、参加者が増加したものです。

主な取り組みや統計データに関する情報

- ・ 神奈川県児童生徒体力・運動能力調査報告書
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f5181/>
- ・ 総合型地域スポーツクラブについて
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f160355/>
- ・ 神奈川県スポーツ振興指針「アクティブ・かながわスポーツビジョン」
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f5245/>
- ・ 3033 (サンマルサンサン) 運動 — くらしに運動・スポーツの習慣を —
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f4424/>
- ・ 県民スポーツ週間
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6135/>
- ・ 平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果
http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kodomo/zencyo/1342657.htm

総合分析

プロジェクト全体としては、概ね順調に進んでいます。

- ・ 子どもが週3回以上のスポーツを実施する率については、目標値を若干下回りました。
- ・ 総合型地域スポーツクラブを育成した市町村数は、目標を達成しました。
- ・ ライフステージに応じたスポーツ活動については、運動・スポーツに親しむきっかけづくりとしての「県民スポーツ週間」の実施、運動やスポーツを習慣化する「3033運動」の周知などが着実に進められています。
- ・ 「運動やスポーツに親しめる機会や場」に対する県民の満足度が依然として低く、引き続き、身近で親しめるようなしくみづくりなどが重要と考えられます。
- ・ 「県民スポーツ週間」については、全体の総参加者数が減少しましたが、中央イベントにおける参加者数は増加しており、新たなウォーキングイベントを実施するなど、内容は充実してきています。
- ・ 「3033運動キャンペーンイベント」の参加者数は大幅に増加しており、より多くの方に周知できたと考えられます。
⇒ 数値目標は2項目中1項目で達成しており、「県民スポーツ週間」の内容の充実や「3033運動キャンペーンイベント」の参加者数増加など、プロジェクトは概ね順調に進んでいます。

今後の課題と対応方向

🍀 誰もがスポーツに親しめる社会の実現

- ・ 3033運動の普及・啓発に加え、実践につながる取組みを進めるとともに、引き続き県民スポーツ週間のさらなる充実を図ることが課題
 - 小学生が積極的に参加できるようなラジオ体操の取組みによる運動習慣の改善
 - スポーツ実施率の低い、働く世代を対象とした3033運動講習会等の実施
 - 県民スポーツ週間における、応募方法の工夫や障がい者の方も一緒に参加できる内容の検討

🍀 気軽にスポーツができる環境づくり

- ・ 総合型地域スポーツクラブのさらなる活性化や、県立学校などの施設開放の充実が課題
 - 総合型地域スポーツクラブの創設に向けた支援やクラブの活性化につながる人材育成、会員確保などに向けた取組みの推進
 - 県立学校体育施設開放の利便性の向上、大学や企業のスポーツ施設開放への働きかけの継続

総合計画審議会の二次評価



概ね順調に進んでいます

